令和５年度　江戸川区立小松川中学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	・進んで学び、深く考え行動する生徒（知） ・心豊かで、地域社会に貢献する生徒（徳） ・心身共に自ら鍛える、たくましい生徒（体）	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○生徒・保護者・地域から信頼され本校に関わる全ての方々が誇りに思える学校。○生徒一人一人の可能性を信じ生徒の成長を第一とする学校 ○自分以外の多様な人を受け入れ、優しく温かい生徒○思いやりの気持ちと豊かな心をもち、常に誰に対しても元気な挨拶ができる生徒 ○生徒の成長を第一とし、常に専門職としての資質・能力の向上に努める教職員○「子弟同行」を胸に刻み、胸を張って生徒指導に取り組める教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ICT環境の整備、働き方改革の推進の取組が進捗し、主体的対話的で深い学びを実現する授業改善や定時労働時間の短縮がなされた。 ＜課題＞ 統合校としての全教職員による一枚岩の指導の徹底し、揺るぎない地域、保護者の信頼を得ること。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞ ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ・英語科・数学科アドバイザーの助言を活かした授業改善 ・「単元別検定・総合検定」の取り組みの充実 ・習熟度別少人数授業（数英）の実施 ・一人一台端末を授業内で効果的に活用し、学習意欲を引き出し、個の学びを支え協働的な学びに取り	・生徒の授業評価において授業が良くわかるという肯定的な意見が全教科85%以上 ・業者による英語・数学の放課後補習教室に各学年8人以上ずつ参加させ基礎学力の向上を図る。また、業者と学校の連絡会を毎月1回開催し、綿密な連絡体制を構築する。さらに、参加者の自己診断テストの結果を20%以上向上させる。	B	B	・1学期末に実施した生徒の授業評価において「授業がよくわかる」という肯定的な意見は6教科にとどまった。教科によってばらつきも見られることから、教員個々の課題について今後検討が必要。 ・業者による放課後補習教室には各学年10名以上の生徒が参加をすることになった。参加者が安定して毎日出席するように出席率をあげていく必要がある。	B	・学校公開で教員の教えている姿をみても日非常に熱心で子どもたちが前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。昔に比べて、生徒に話合わせたり自由に意見をいわせたりなど授業も変わってきたと感じる。	「授業がよくわかる」ための授業改善を進めるが、特徴として、授業では理解できていたり、積極的に取り組んでいる様子があるが、定期考査の時期になったり、学習が定着しているかを考えたときに定着していない。家庭学習の見直しが課題である。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朗読書と1時間単位との関連付け ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・読書科の目標や指導指針に即した指導の実施。 ・成果物の展示 ・区立図書館職員による学校図書館整備 ・各教科による学校図書館を使った授業の実施	・成果物展示を、各学年1回以上実施し、生徒に本の活用の有用性を実感させる。	B	B	・成果物の展示を進めることができた。図書委員会により図書館の使用しやすい工夫や便りによって活性化を図ることができている。 ・定期的な図書館職員による学校図書館の整備により読書環境の適した空間を作ることができている。 ・図書館を授業の中で活用する機会を増やしていく必要がある。	A	・とてもきれいな図書館で今の生徒たちはとても幸せだと感じる。朝読書等にも取り組んでいるようだが、ぜひ、読書をする習慣を中学生のうちに身に着けてほしい。現代は、ゲームやメールなどで済むことも多いが、それだけではない素晴らしさを感じてほしい。	図書館支援員と図書担当教員がさらに連携を深め、活用しやすい魅力あるの図書館運営を進める。ポスターでの宣伝や放送での紹介をはじめ、子どもたちに読書活動の素晴らしさを伝えていく必要がある。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・体育の授業での補強運動や、休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・新体力テストに向けた体育の授業及び部活動における補強運動の取組 ・ロードレース大会に実施に向けて、生徒の体力の向上とスポーツに取り組む達成感や意欲を高める取組	・一年間継続した補強運動を行い、体幹の強化を図り、けがをしない体づくり、丈夫な体づくりを進める。 ・体育の授業で「補助運動」の時間を必ず10分間とらせ生徒の運動時間を確保した授業を実践させる。また、運動が苦手な生徒に対して、運動する事の楽しさが伝わるゲーム形式を取り入れ工夫した授業を実践させ、全校生徒の体力合計点を昨年度の小松川一中・三中の合計平均値より8%以上向上させる。	B	B	・継続した補強運動を、体育の中で計画的に進めることができている。体育に関する興味関心は高く、授業だけでなく部活動の競技力向上にもつながっている。今後の継続した取り組みによって成果を期待したい。 　また、男女共修による球技の取り組みでは、教えあい学習にスポットをあててとりくむことから、さらなる主	B	学力だけでなく体力づくりを進めてほしい。部活動の成果では野球部、サッカー部、ソフトボール部、バレーボール部でも好成績を納めているので、基本である体力の向上に今後も努めてほしい。	学力と体力の文武両道を学校経営方針で強くうたっている。体力の基礎となる持久力とたくましい体を支える体幹づくりを継続して進めていく。持久力を育成するために、汗をかく授業を実践していく。また、主体的に生涯にわたって取り組んでいけるような本当の運動の楽しさを実感させる授業を展開していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・専門職を最大限に生かした特別支援委員会の週一回の取組 ・SC及び巡回指導員による研修会の実施 ・普通学級、特別支援学級、夜間学級の交流	・特別支援委員会を週1回実施し、隔週で拡大特別支援委員会として、SC，SSW，特支専門員、巡回指導員との情報共有を行い、多角的な支援の充実を図る。	A	B	・特別支援委員会では、それぞれの立場による取り組みを進めてきているが、専門職の活用にはやや不十分さが残った。委員会の取り組みや進め方を夏休みで修正し、二学期以降は、新たな取り組みを進めている。 　今後スクールカウンセラーの研修会を開催する。	A	本人の問題だけでなく、家庭の問題が大きく影響していると感じる。一人一人によって全然特性が違うし、ということは、対応も変わってくるので教員は大変だと感じる。しかし、チームで共有し地域の子供のために頑張ってほしい。	職種の違う職員を効率よく活用することが、個々の生徒にとってより最善な対策につながっていく。特別支援コーディメーターを中心に、各担任へ、情報だけでなく対応策まできちんと伝わるシステムを確立する。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・子供たちの健全育成に向けた取り組みの強化 ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用 ・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	・不登校対策委員会の充実 ・教室に入ることのできない生徒への指導体制の整備 ・特別支援委員会の充実 ・SNS生徒会ルールの取組 ・小松川中学生としての誇りとプライドをもたせ、挨拶や地域への感謝の心、規範意識をもつ生徒の育成	・登校渋りの生徒に対する受け皿を確立し、不登校生徒2%以下を目指す。 ・SNS生徒会ルールを生徒会担当で進め、税都会による、生徒の安全啓発活動をすすめ、生徒の自立を促す取り組みを進める。	A	A	・夜間学級がある本校の特徴を活かし、不登校生徒で別室であれば登校できる生徒の居場所づくりを進めることができている。不登校支援員6名を任用し、担任任せにしない別室指導体制ができている。	A	不登校問題も家庭の問題が大きく影響していると感じる。不安定な世の中で子どもたちも不安に思ったり、将来の姿が想像できないところがあると思う。保護者も難しい問題を抱えている人も多いが、ぜひ学校と家庭が手を組んで改善に取り組んでほしい。	居場所づくりの確立をする。担任任せにしない不登校支援員の在り方、活用の仕方を確立する。アセスメントを通して、生徒、保護者のニーズに答え、主体的に登校できる生徒を育成していく。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・地域行事へ生徒及び教職員共に積極的に参加し、地域とに根差した学校を作り、地域で育つ生徒の育成を推進する。 ・HP，学校公開を積極的に宣伝し、オープンな学校教育を推進し、地域保護者からの信頼を得ていく。	・小松川平井地区運動会にはボランティアに参加	A	B	・小松川平井地区運動会のボランティア生徒を募集したところ、自ら参加を申し出た生徒が120名を超えた。実際には中止になったが、次回のボランティアでも募集をかけ、地域とのつながりを感じる活動を推進していく。	A	小松川平井地区は、地域の行事が盛りだくさんである。その行事に生徒の皆さんが自主的に参加してくれているのは非常にうれしいことである。また、先生方も多く参加してくれるので大変ありがたい。	地域活動には生徒、教職員とともにモチベーションが高い。地域行事に参加することの魅力を感じ、継続して学校と地域が手を組めるような雰囲気づくりをさらに進めていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・小松川平井地区を熟知した方々を、学校評議員としてお招きし、多角的に、地域に根差した学校に向けて意見交換をし本校の教育を推進していく。	・学期に一回の学校評議員会を実施する。	B	B	・7月に第一回学校評議員会を開催。小松川第一中学校と小松川第三中学校からの評議員の方に引き続き引き受けていただき新校についての課題等を話し合いで深めることができた。12月に第二回の学校評議員会を夜間学級で行う予定。	A	地域としても学校に対する期待は大きい。都内でも初めての通常学級、特別支援学級、夜間学級が併設されているがっこうであるから、大変であるが他にはない特徴を出して子どもたちのために頑張ってほしい。期待している。	学校評議員会を年3回進め、生徒にとって良いと思うことを、多面的な目でみて、教育課程に取り入れる取り組みを進める。学校評議員主催の行事を展開するなど、外部人材の活用に工夫を凝らしていく。
特色ある教育の展開	通常・特支・夜間の3つの学級の生徒が生き生きと学ぶ教育活動の推進	・3学級の生徒の交流学習を積極的に進め、どの学級も優先順位がない体制を構築する。	運動会、文化祭、将来的には卒業式、入学式も同じ場で設定し一つの学校として学校教育を進めていく。	A	A	夜間学級生徒の部活動参加を進め、仮入部期間を設定し、実際に複数の部活動で生徒が入部した。50代の生徒の方を教える中学生などの光景が見られている。	A	夜間学級の部活動参加はまさに交流学習にはもってこいだと思う。それぞれの立場で良い影響を受けてほしい。	インクルーシブ教育をさらに進めることが課題。各行事において連携を感じられる取り組みを進めていく。
	人権教育を基盤にした魅力ある教育活動の実践	・パラスポーツ等を積極的に取り入れ、障がい者理解、人権尊重教育を推進し、全校生徒の心の教育を推進する。	・人権プログラムの計画的な活用。 ・人権担当者による伝達講習による周知。	A	B	通常学級、特別支援学級、夜間学級生徒の日常的な交流から人権教育を進めている。	B	人権尊重は本校のキーとなっているようだ。ぜひこれからも計画的に進めてほしい。	地域のパラスポーツや行事に参加し、地域の中で生徒の心を育てていく取り組みを進める。